

3293 欧州 88 夢紀行：ヨーロッパ人

突然の割り込み。「久楽さんは、言葉が話せるのですか」「英語だけ少し」とお答えしている。
夢はでっかく。夢見る夢男だった。現実は違った。48歳の挫折。そんな選択肢はなかったが、幸運が舞い込んだ。
ラッキー、スマイルオンミー。想定外の想定外。強力なサポート。

出典が確かでない。参考になるので、ヨーロッパ人について、文章を引用させていただいた。

欧州、歴史をたどると、遙か彼方の異国情緒の国くらいの感覚でしか日本を見ていなかったヨーロッパ人。
その経済進出に伴った貿易摩擦など、彼らの生活に何らかの影響を及ぼすことになり、
不本意ながら、日本への関心を無視するか、あるいは、嘲笑の類では、すまなくなると。

ヨーロッパ人というのは、自分たちが文明、文化の伝達者、中心であるという世界観しか持ち合わせていない。
自分たちと違う立場の異質な文化に対する不信感とか猜疑心は、我々の想像を絶すると。
受け付けられないし、馴染まない。これが基本にあると。

というのも、自分たちの利害、本質に抵触してくると、絶対に譲らない。
話し合いも、一筋縄ではいかない。妥協がない。とことん我を通す。日本人のように何かに共通項を探し出し、
“まあまあ このあたりで” という言葉は出てこない。

この背景は、度重なる侵略、苛烈な宗教戦争、それにもまして、自然環境における自己防衛から出た知恵？
日本人のように、単一民族、敵からの侵略もなく、四季の変化に恵まれ、行雲流水に
身を委ねて生きていける我々には、理解しがたいところであると。

織田信長の生き様から始まり、鎖国下の江戸時代まで、特殊な条件下にありながら
その文化水準の高さには驚いたことと思う、日本と日本人に対する誤解と偏見に満ちたヨーロッパ人、
そのヨーロッパ人に、やたらおもねる日本人、白人コンプレックスという虚妄の意識にまだとらわれている日本人。

「日本人とは、国際人とは」こんな勉強をした学生時代がある。
言葉はいかに？ 英語クラブに入部、今は堪能ではない。語彙が少ない。しかし、英語で伝達はできる。
地球6周分、約25万キロ、40カ国余一人旅をした背景があった。夢が潜在意識にあった。

多くの友人は海外に。今も元気で頑張っておられる。人脈はその時がベースに、京都だけでない。広範囲に友人がいた。私には友人が宝。いろいろアドバイスをもらったものである。

大きな出来事は、英語での模擬国連、「キューバ問題」。アメリカの国連大使役だった。

旧京都会館に国際会議場があった。各大学の ESS（英語部）が集合して「連盟」が結成されていた。当時、烏丸三条にあった。アメリカ文化センター、木曜ミーティングでの英語でのアメリカからのゲストのご紹介。

実力不足だが、人当たりが良かったのか、いろいろお役目をいただいた。下記は発言中の私。



当時、オリンピックの影響で英語の勉強が盛んだった。

友人に誘われ、偶然、入部した ESS、世界のことを知る機会になった。この出会いが人生を変えた。

ビジネスでは大成しなかったが、今、ありがたい心の財産があり、頑張っている。

多くの事件にも遭遇、完璧な無事故での地球夢紀行と言えないが、ほぼ無傷で今日に至っている。

外務省邦人保護課の所長が、一人旅で無事故には驚いておられた。

努力と臆病さが 50%、現地での下調べと直感。ポーランドでの事件は、初歩的なもの。上には上がある。

今、北朝鮮の問題が連日報道されている。いろいろ考えさされる。

1941 年生まれ。戦争はこりごり、何もできないが、なんとか解決の道はないかと祈るのみ。

考え方、価値観、感性、世界はいろいろ。